

評価項目の達成及び取組状況と評価委員会の評価

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
① 保育の計画性	A	年間計画、月間計画、期間計画を立て実行している。教員間で意見を出し合い、学年間の意思疎通を図り基本に則ったうえで、新しい試みを常に計画し実行している。今年度は新型コロナウイルス対応の為、予定が大幅に変更になったが、子どもたちの成長の為の保育が損なわれない様、計画を立て直し実行した。	A	コロナ禍の中、柔軟に計画を変更して対応した。学年ごと、クラスごとに、多様な活動を心がけている。 常に保育内容を刷新する努力がみられる。
②保育のあり方 幼児への対応	A	クラス全体の運営を考えながら、個々の子どもの様子・成長に配慮することを意識して、保育を行う事が出来ている。子どもの自発性をくみ取る努力をしている。発達障害の園児・グレーゾーンの園児への対応は、良く勉強して対応を心がけている。	A	保護者の満足度が高い。子どもが、先生や友だちに言いたいことを伝えられないと感じている保護者もいるようなので、さらに、子どもが思ったことを伝えやすい環境づくり、声掛けを工夫する余地がある。障害園児への対応も努力している。満三歳児保育も発達に合わせ、丁寧に楽しく行えている。
③教師として資質 能力、適正等	A	多数の教員が、教員としての資質に自信を持つことができている。ポジティブな気質は評価できる。	A	殆どの教員が、明るく、元気に子どもに接している。教員としての自覚も高い。保護者の信頼も大きい。
④保護者への対応	A	とても良く綿密に対応している。園全体で対応については徹底しているため、トラブルも減っている。 発達障害を持つ園児の保護者ともよく意思疎通を計れている。	A	コロナの休園中も家庭に連絡を取り様子を確認したと報告があった。通常保育でも、子どもの様子をこまめに連絡するなど、保護者との関わりを密にしている努力が感じられる。
⑤地域の自然や地域との関わり	B	今年度は、新型コロナウイルスへの対応の為、地域の方との交流会、小学校との交流会が全て中止となった。 地域の自然や社会とのかかわりが弱いと感じている教員が多いが、園の立地面・安全面から難しいところもある。教材を使用したり、花や野菜を育てることで、生物に対する関心を高めている。	B	コロナ禍の中、地域や小学校と交流できなかった事は致し方ない。
⑥研修と研究	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県振興協会主催の研修がほとんど中止となった。沼津市私立幼稚園協会主催の研修会はリモートで行われたため参加できた。日々の業務が忙しく自己による研究をしていないと反省している教員が多い。	B	毎日忙しく大変だと思うが、向上心を持って意識的に視野を広げ、保育の幅を広げてほしい。